

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 自社のサプライチェーン排出量の現状を把握し、カテゴリ別の排出量割合を可視化することにより、重点的に削減活動を進めるべきカテゴリの優先順位を決定し、様々な削減取り組みに繋げていくため● ステークホルダーからのスコープ3の情報開示ニーズに応え、弊社の環境推進活動をより深く理解、評価して頂くためと、説明責任を果たすため
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● 自社の取り組みを経年的に把握・評価することにより、削減効果の確認や、今後の目標策定の検討に活用● 各種アンケート調査等の回答に活用● 弊社ホームページおよびCSR報告書において情報を公開し、ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして活用
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーン全体での把握およびカテゴリ毎の把握(対象外含む)をすることにより、今後重点的に削減活動に取り組む対象を特定(状況分析)できる● 企業としてのリスク管理・事業機会の創出ができる● 弊社の環境に対する取り組み姿勢を積極的に社会に公表し、ステークホルダーに正しく理解頂ける● 開示データの信頼性・透明性を高めることで、ステークホルダーからの評価を得られる
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 社内の関連部署より収集したデータを基に、CSR推進室にて一括して算定

各社の考え方

<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 負荷の大きいフェーズを中心に、削減していく意義と妥当性を判断した後、削減目標等を設定し(PDCA を回して)、スコープ1、2と同様に継続的改善を目指していく予定
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● データ集計および算定業務に労力がかかるため、効率化・自動化が課題 ● みなし推計が多いため、活動量・原単位・算定方法の見直しや精緻化が課題 ● みなし推計が多いため、サプライチェーンでの削減活動の効果をスコープ3排出量に反映させにくいことが課題 ● 事業拡大に伴いスコープ3排出量が多く算出されるため、目標設定などの考え方の整理が課題
<p>□ その他(任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● これからサプライチェーン排出量を算定する方へ <ol style="list-style-type: none"> ①スコープ3排出量を算定する背景・目的・メリット等を明確にすること ②原単位による算定などにより、おおよその排出量を把握（現状の可視化） ③該当するカテゴリーの排出量を算定（網羅性を重視し、該当しない項目・カテゴリーの除外理由を把握） ④今後重点的に削減活動に取り組む対象の優先順位をつけ、正確性を向上 ⑤経年比較出来るように、一貫した算定方法を検討・確立（継続性の原則）

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入製品・サービスの種類別調達額	● 排出原単位データベースver2.1
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● 排出原単位データベースver2.1
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電気・ガス等のエネルギー使用量	● 排出原単位データベースver2.1 ● CFPプログラム基本DB
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 物流のトンキロ(省エネ報告分)	● 国土交通省のデータ
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 種類別廃棄物量	● 排出原単位データベースver2.1
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額	● 排出原単位データベースver2.1 ● 国土交通省のデータ
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 通勤費支給額	● 排出原単位データベースver2.1 ● 国土交通省のデータ
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● リース資産が使用する燃料や電力はスコープ1または2で算定済みのため、0としている	● —
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 自家物流や自社施設での排出(スコープ1または2で算定)、委託輸送(カテゴリ4で算定)がほとんどであることから算定対象外としている	● —
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 中間製品の加工を実施していないため、0としている	● —
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 販売した製品の電力使用量	● 電気事業者別排出係数
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 販売した製品の種類別廃棄物量	● 排出原単位データベースver2.1
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● リース事業を実施していないため、0としている	● —
カテゴリ14「フランチャイズ」	● フランチャイズ事業を実施していないため、0としている	● —
カテゴリ15「投資」	● 投資先企業の発電事業による排出量	● 電気事業者別排出係数
「その他」	● 算定対象外	● —

算定結果

■ スコープ3を含めた算定結果

スコープ、排出カテゴリー

排出量(千t-CO2)

スコープ1 (直接排出)	2.6
スコープ2 (エネルギー利用に伴う間接排出)	11.0
スコープ3 (バリューチェーンからの間接排出)	2,115.4
1 購入した製品・サービス	72.7
2 資本財	49.6
3 スコープ1,2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	2.4
4 輸送、配送(上流)	0.02
5 事業から出る廃棄物	0.1
6 出張	0.5
7 雇用者の通勤	1.8
8 リース資産(上流)	0.0 ※1
9 輸送、配送(下流)	算定対象外 ※2
10 販売した製品の加工	0.0 ※3
11 販売した製品の使用	104.8
12 販売した製品の廃棄	0.02
13 リース資産(下流)	0.0 ※4
14 フランチャイズ	0.0 ※5
15 投資	1,883.5

※1 リース資産が使用する燃料や電力はスコープ1または2で算定済みのため、0としました。

※2 自家物流や自社施設での排出(スコープ1または2で算定)、委託輸送(カテゴリ4で算定)がほとんどであることから算定対象外としました。

※3 中間製品の加工を実施していないため、0としました。

※4 リース事業を実施していないため、0としました。

※5 フランチャイズ事業を実施していないため、0としました。